



みんなで力を合わせて、
きのと小

燦 だより

子どもの方をしっかりと向いて、大事に大事に育てましょう

平成29年2月14日
学校だより 17号
胎内市立きのと小学校

[http:// tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es](http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es)



成せば為る

為さねば成らぬ

校長 佐藤 新一

先週、学年部ごとになわとび大会が開催されました。一月足らずの練習期間でしたが、すごく上達したことを感じています。チャレンジ種目では、体力・調整力の凄さに驚かされました。

為せば成る 為さねば成らぬ

何事も 成らぬは人の為さぬなりけり！

前号でも書いたなわとびの様子。「二重跳びできないけど、頑張っていたらできたよ」の言葉の中には、為せば成るの具現化された姿があります。

上の名言は米沢藩主 上杉鷹山の言葉です。

やればできる(可能性はある)

やらなければできない(可能性はゼロ)

できないのは その人がやらないからである。

一生懸命努力してもできないことはあります。

しかし、『為せば成る』の精神でやってみることが大切です。



2月の全校朝会で、偉人「宮沢賢治」を紹介した後に5・6年生に課題を出しました。『アメニモマケズ』を暗記して、一人ずつ私に聞かせてくださいと言う課題です。かなり長い詩ですが、初めから『無理！』と言わず、まずは笑顔でチャレンジです。現在5・6年生の約4割が合格しています。

1～4年生にも『一番はじめは』という手毬歌(童歌)を覚えてみましようと話しました。覚えて私の前で歌ってくださいとは言っていないのですが、挑戦しに来た1・2年生が5人います。私の前で、一人で歌うのですから緊張するはずですが、まずは、その心意気を買いたいのです。歌い終え「やったー」と満足そうに戻っていく姿は誇らしいものです。がんばっています。もちろん、低中学年の『アメニモマケズ』への挑戦も大歓迎です。校長室で楽しみに待っています。

子どもの環境を整えてあげよう

先週、入学説明会がありました。その際に、親としてこんなふうにも子どもに接したいという話をさせていただきました。それは、現在小2の親である自分への問い直しでもありました。

ドロシー・ロー・ノルトの「子どもが育つ魔法の言葉」という本から、一部紹介しました。



『けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる
分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ
愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
本に囲まれて育てば、子どもは知恵を学ぶ
褒めてあげれば、子どもは明るい子に育つ
守ってあげれば、子どもは強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは

この世の中はいいところだと思えるようになる』

子育てで大切なのは、環境を整え子どもを導くことだと思っています。分かち合う環境、あいさつする環境、褒めてやる・守ってやる環境、愛する環境・・・を整えてあげたら(示してやれたら)、子どもはそれを受けて学び育っていきます。

その環境を作ってあげられるのは大人であり、一番近くにいる 親 です。

「こんなこともできないの」「なにやってるの、早くしなさい」の言葉を「一緒に頑張ろうか」の愛溢れる励ましの言葉に代えて声がけしていきたいものです。 新入生の入学が楽しみです。

学校では、これから学習のまとめの時期に入ります。また、六送会の取組が本格化していきます。インフルエンザの流行期にも入っていきますので、ご家庭でも手洗いうがい等の予防対策をお願いいたします。

